

おしい図書館

No. 229

TEL 047-311-0886

発行
おしい図書館
代表
青木和子
松本市牧の原1-104-416

特定非営利法人

メディアアクセスサポートセンター

総理大臣表彰

報告 青木和子

常世田良さん（元立命館大学教授）が代表を務める「メディア・アクセス・サポートセンター（MASC）」が、2023年12月27日、バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者として総理大臣表彰を受けました。

「すべての人が安全で快適な生活を送ることが出来るバリアフリー・ユニバーサルデザインの推進に尽力され、その功績は極めて顕著」であるとして、長年の努力が

高く評価されたことに、心よりお祝いを申し上げます。



「NPO法人メディア・アクセス・サポートセンター」は、映画やアニメなどの映像作品のバリアフリー化を進め、社会に広めるための活動に取り組んでいます。

NPO設立のきっかけは、耳の聞こえない方からの「字幕が無ければ、私は死ぬまでこの映画を観る事ができない」「母である私が聴覚障害者、耳が聞こえる子どもと一緒に映画が楽しめず、いつも悲しい思いをしている」という言葉でした。「映画の感動をみんなのものに」と、多くの関係者（権利者、制作者、提供者、受け手側の当事者）

それぞれ知恵と行動の結集と協力により活動が始まりました。映画館から家庭まで、感動をみんなのものにするために「メガネで見る字幕ガイド」「スマホで聴く音声ガイド」を考案し、全国で日々活動を続けています。

活動内容：4つの取り組み

○フナぐ：映画制作者、コンテンツ提供会社、TV局、ネット配信会社、障害者団体、図書館等による映像提供の架け橋になるために、バリアフリー字幕、音声ガイドのデータアーカイブ化を進めています。

○そだてる：バリアフリー字幕と音声ガイド制作者養成講座を全国各地で行いながら、ボランティアやプロの制作者をぞびまわります。

・プロ制作者養成講座（日本映像翻訳アカデミー共催）

・映画・映像のバリアフリー化を学ぼう。(遠隔あり)

○つくる：制作者監修のもと、聴覚障害者には字幕、視覚障害者には音声ガイドをモニターしていただくながら、その意見を反映させ、バリアフリーし字幕と音声ガイドをつくっています。

○ひろめる：映画館、博物館、美術館、自宅でもバリアフリー視聴が手軽にできるように、スマートフォン等の携帯端末を使った字幕表示、音声ガイドの再生アプリケーションの開発、提供をします。

これまでの主な実績

- ・国際福祉機器展展示&プレゼン(2006年)
- ・東京国際映画祭でのバリアフリー企画携帯情報端末と周辺機器の開発と実証実験(2012年、2019年)
- ・字幕制作ソフト「おこ助」の開発

発・提供によつて、字幕と音声制作を身近なものにした

・バリアフリー字幕の無い市販のDVDに字幕を表示できるDVDプレーヤーソフト「おと見」による300デイスク字幕制作&配信中
・バリアフリー字幕&音声ガイド制作本数1000作品以上(TV放送含む)
・バリアフリー字幕&音声ガイド制作講座におけるカリキュラムを作成し、プロを養成してきた。(500名以上)

右記の他にも様々な取り組みをしております。関心を持たれた方は「映画みいこ」にて検索して頂ければ「NPO法人バリアフリー・アクセス・サポートセンター」に関する最新情報を得る事ができます。お目通し頂ければ幸いです。

常世田さんをはじめとして、MASCの皆様のご努力に改めて敬意を表させていただきます。

松戸市議会へ
請願書を提出

報告 青木和子
2月13日、遠山加奈さんと神保子さんが「イスラエルとパレスチナの戦争の即時停戦を求める決議」についての「請願」を、松戸市議会議長宛てに提出しました。

イスラエルとパレスチナの戦争を憂慮し、人道的立場に立った即戦停戦を求める決議についての「請願

- 請願者 遠山加奈 神保子
- 紹介議員 工藤鈴子 増田薫
関根ジロー 戸張友子
山口正子 ミール計恵
嶋村新一

公請願趣旨

松戸市は、日本国憲法の基本理念である平和精神にのっとり、平和の維持に努め、世界の恒久平和の達成を願い、「世界平和都市宣言」をしております。

人はすべて、かけがえのない平等な存在として尊重され、幸せに生きる権利を持っております。どんな国に生きていようと、その権利に変わりはありません。

現在のパレスチナ・ガザ地区の人道状況は、ユニセフが発表しているように「子どもたちの墓場と化し、人々の生き地獄」となっております。

国際人道法に反する病院への攻撃や、患者を乗せた救急車の車列、学校、産業基盤が攻撃され破壊されていきます。これにより、食料や水、燃料、医薬品も命をつなぐ最低ラインに達し、人々は飢餓という人道上の危機に直面しております。

「ぼくは何も悪いことをしてい

ないのに、私にどこに行けばいいの？」と泣き叫ぶ子ども。

この惨状を目の当たりにして、どちらが正義かというより一人を殺してはいけないという原則に基づき、一刻も早い停戦が必要です。

公請願事項

「人権尊重都市宣言」をしております松戸市の市議会に、パレスチナとイスラエルの即時停戦を求める決議をいたしました。公請願します。

令和6年2月13日

令和5年度松戸市議会3月定例会の
総務財務常任委員会において、3月7日、
公請願の審議に先立ち、遠山さんが「趣旨
説明」を行いました。

公趣旨説明

毎日多くの子どもや女性の命が失われている現実を目の当たりにして、「もうこれ以上、戦争はやめて、殺さないで」という声を、

ここ松戸からも上げたい、この思い

から請願に至りました。

松戸市は、日本国憲法の基本理念である平和精神に則り、平和の維持に努め、世界の恒久平和の達成を願い、「世界平和都市宣言」をしております。また一人ひとりを尊重し安心して幸せに生きる社会の実現を目指し、「人権尊重都市宣言」をしております。松戸市が誇るべきこの二つの宣言の精神を、今こそ広め生かす時です。

10月の武力衝突から今日まで5か月。イスラエル側死者1200人余りに加えて、ガザにおけるパレスチナ側の死者の数は時間の経過とともに増え続け、3月5日時点では3万6千人、過去24時間に79人死亡、と発表されていきます。互殺に埋まったままの行方不明者を含めれば3万2000人を優に超えているでしょう。その中で子どもの数は約半数であると言われております。国連パレスチナ難民救済機関(UNRWA)によ

れば、4か月でガザの死傷者は10万人に及ぶという事です。

テレビの映像で見る、お腹をすかせてスープや濁った水の配給に鍋を抱えて並んでいる子どもたち。そのキラキラしていた瞳の輝きは次第に無くなり、笑顔も消えています。ガザ南部に追いつまされたパレスチナ人は、冬の寒さと雨の中で空腹を抱え、飢餓という命の危機にさらされています。

この深刻な人道状況に、内外で停戦を求める声が高まっています。昨年12月15日の国連総会は、138か国の賛成で人道的停戦を求める決議を採択しています。日本も賛成しました。

1月26日には南アフリカの提案で、国際司法裁判所(ICJ)はイスラエルに集団殺害防止の暫定措置を命じました。上川外務大臣もこれを支持する談話を出しました。

2月8日、国連のグテーレス事

務総長は記者会見で「悲劇を回避しなければならぬ、人道的停戦が必要」と述べています。

2月27日、国連安全保障理事会は、ガザの人口の約4にわたる5万人600人が飢餓の一手手前になると警鐘を鳴らしています。

かすかに聞こえてくる「私たちは世界に見捨てられていく」というパレスチナ人の声を聞かなくなることには出来ません。

目の前で子どもが井戸に落ちそうな時、とっさに駆け寄り助けようとするのが人間の本性です。目の前で暴力が振るわれていけば、まずはそれを止め、から双方の言い分を聞くのが人情ではないでしょうか。私たち、決議を求める気持ちです。

「早く戦争が終わってほしい」「家族みんなでお腹いっぱいご飯を食べたい」と願う子どもたち。彼ら彼女らが生き延びること、生

きていくこと、生きていける状態を作ることこそが大事なのです。

「平和には戦争以上の力があります。そして平和には戦争以上の忍耐と努力が必要なのです。……これはアフガニスタンで人道支援に命を捧げた中村哲さんの言葉です。

もうこれ以上、かけがえのない命が失われまいよう、ストップ。暴力！殺さないで！という声を、ここから上げたいと思います。

市議会の皆さんお一人お一人の「殺さないで」という思いと世界平和への思いを結集し、「人道的立場に立つた一刻も早い停戦」の決議を願います。

遠山加奈 神惺子

めったに採択されない市民提出の請願が「全会一致で採択」となりました。短い準備期間にお二人が精一杯努力した成果です。本当にお疲れ様！良かったですわ！！